

一	「	広	足	中	蘭	そ	「	下	は	と		廊	け	か	状	紅	に	が	心
度	仏	が	下	には	を	う	ち	の	逆	指	それ	下	に	ら	態	蘭	後	こ	で
立	蘭	つ	を	は、	追	言	よ	奥	に	示	を	側	紅	何	に	は	ろ	ち	舌
止	こ	て	人	桃	い	い	っ	へ	駆	を	見	に	蘭	か	な	は	で	ら	を
まり	つ	い	形	色	抜	な	、	と	け	出	た	は	は	が	つ	襖	に	に	打
仏	ち	た	が	の	く	が	。	待	出	し	仏	「	そ	動	！	に	遮	手	急
蘭	っ	。	駆	傘	。	ら	慌	っ	し	な	蘭	紅	き	き	」	ら	れ	を	い
を	！		け	と	て	踏	て	と	、	が	は	逃	回	出	と	こ	れ	差	で
少	」		て	少	振	み	て	待	、	向	「	げ	る	し	と	以	し	出	視
し			い	年	返	出	っ	っ	紅	か	紅	る	た	出	上	上	て	し	線
乱			く	と	っ	した	！	！	蘭	っ	蘭	わ	の	て	後	後	き	て	を
暴			不	和	た	一	」	」	の	！	よ	き	を	い	ろ	ろ	て	元	に
に			思	服	先	歩			後	っ	っ	き	を	る	に	に	戻	戻	す
抱			議	の	の	目			ろ	っ	！	っ	を	い	下	下	す	す	と
き			な	女	視	で			に	っ	」	」	を	る	が	が	と	と	、
上			光	、	界	紅			伸	」	」	」	を	る	れ	れ	同	同	少
げ			景	そ	の	蘭			び	」	」	」	を	る	な	時	時	時	年
て			が	し	の	は			る	」	」	」	を	る	い	と	と	と	少
				て	視	は			暗	」	」	」	を	る	い	と	と	と	年
					界	仏			い	」	」	」	を	る	い	と	と	と	年
					の				廊	」	」	」	を	る	い	と	と	と	年

「あれは一体何だったの？普通じゃないわ	る涙を手で拭う。	た仏蘭は「悪かったわね。」と顎まで伝っている	身体を這つてもう一度肩越しに後ろを確認し	るわ。」	「ごめん！もう大丈夫よ。後ろはわたしが見	た。	いた腕には赤く跡が浮き上がってしまったてい	仏蘭の整えられたおぐしは乱れ、押し付けて	力加減や持ち方など考えている余裕もなく、	「えっ？何！？どうしたの？」	「ふがつ、もごっ！」	せていると、胸元で仏蘭が暴れ始めた。	がら、恐怖で頬を伝う涙も拭わず足音を響か	ない。前と右と後ろを何度も何度も見返しな	がっているが長過ぎる廊下の半分も進めてい	に押し付けるように抱え直す。すでに息が上	絶対に落とさないように背中から仏蘭を胸元	「もう！いつもの威勢はどこいったのよ！	対に紅蘭の冷静さを呼び起こしていた。
---------------------	----------	------------------------	----------------------	------	----------------------	----	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------	------------	--------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	--------------------

子供と和装の女つてのは不気味だったけどま	だ理解できたのよ。」	不思議と仏蘭の声が聞こえるだけで恐怖感が	和らいでいく。	「問題はあの傘よっ！化け物だったわ！何？	わたしたちみたいな人形と同じようなものだ	と思えばいいわけ？」	その声の大きさが襖の奥の宿泊者に届いてい	ると思うと、疲れていても走ることも速度を	落とすことも容易にはできない。	「あれは、傘（からかさ）って、妖怪じゃ	ない？」	途切れ途切れ仏蘭の興奮を鎮めるために自分	が見た光景から思い当たることを伝える。	「傘？何よそれ？」	「詳しくはわたしもわからないけど、妖怪だ	よたぶん。」	「妖怪？何それ？」	「日本の・・・えーっと、こういうのなんて	言うの。ほらっ、その、神様みたいな。」
----------------------	------------	----------------------	---------	----------------------	----------------------	------------	----------------------	----------------------	-----------------	---------------------	------	----------------------	---------------------	-----------	----------------------	--------	-----------	----------------------	---------------------

て	仏	「	「	「	同	つ	と	と	「	よ	「	う	つ	違	つ	な	き	い	の
く	蘭	そ	さ	・	時	と	仏	仏	違	。	反	気	て	う	窓	い	、	声	る
る	は	う	あ	・	に	恐	蘭	蘭	う	。	対	配	動	窓	柰	、	や	。	の
場	今	よ	。	・	振	怖	は	は	？		が	い	柰	は	青	蝉	。	使	
面	に	ね	。	。	り	と	頭	頭	？		な	て	一	は	空	の	。	っ	
。	も				返	不	を	を	！		か	い	体	一	と	鳴	。	た	
廊	す				っ	安	発	抱	何		。	る	何	確	海	き	。	十	
下	ぐ				て	を	し	え	も		。	。	の	実	の	声	。	字	
の	近				み	発	よ	て	か			。	た	に	景	が	。	が	
一	く				た	し	う	次	も				。	今	色	聞	。	中	
番	の				が	時	と	か	違					に	が	こ	。	央	
奥	の				何	、	し	ら	う					。	広	え	。	に	
に	襖				も	「	た	次	わ					。	が	て	。	浮	
あ	が				な	ぎ	。	に	！						っ	き	。	か	
の	開				い	し		湧	一						て	て	。	び	
傘	い				。	。		き	体						い	も	。	上	
の	て							出	。						。	お	。	が	
化	何							る	。						か	お	。	っ	
け	か							疑	。						し	か	。	。	
物	が							問	。						く	し	。	。	
	出								。						。	く	。	。	
									。						。	。	。	。	

が出てくる場面。右側のベランダに何か張
 り付く場面など、思い描けるだけの怖い場面
 を想像していざという時に備えていた。
 「いやあああああつ！」という叫び声と共
 に首根っこを掴まれたかと思うと一気に身体
 は中に浮き、視界が廊下から五枠の窓へと変
 わり、そしてそれが遠のいていく。
 「なっ、何よ、何よ！どうしたのよ！？」
 と激しく揺さぶられながら状況説明を紅蘭に
 求めるが、「もうやだー！ー」という返事しか
 返ってこない。ぶれる景色の中で今までいた
 謎の空間へと視線を向けると、一瞬だけ空間
 が人型に歪んで見えた気がした。だがそれも
 紅蘭が右に曲がったことで見えなくなつた。
 がむしやらに角を曲がった先には、L字型
 に伸びた廊下とその交点にこちら側を向いて
 下に続く階段があつた。一瞬で自分たちが上
 がつてきた階段の位置が目の前廊下の突き
 当たりだといふことがわかり、へぐるつと回
 ってきたんだと理解する。と同時に左側に

